

OTTAVA f SC-C70 の活用(1)

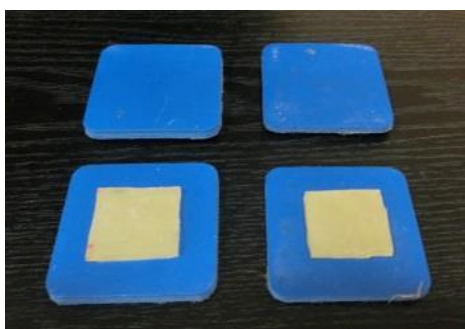
—音質向上の試み(1)—

1. はじめに

OTTAVA f SC-C70 の導入(14)において、SC-C70 の音質評価について整理をしましたが、過去の経験から音質向上が実現できそうな手立てを検討してみます。今回は、本体と電源ケーブルについて検討します。

2. OTTAVA f SC-C70 の試聴方法

本体については過去の経験から、J1 プロジェクトのインシュレーターとアクションパッドを貼り合わせたものを準備します。電源ケーブルについては、これも過去の経験から、フェライトコアを通し、コネクタとプラグ付近に制振材の foQ シートを貼りつけ、中ほどにはオヤイデの電磁波吸収シートを貼りつけます。



音源は CD 再生と USB-HDD からの再生、および Spotify Connect の再生です。

3. OTTAVA f SC-C70 の試聴結果

SC-C70 は花瓶台の上に直に置いてあり、サブウーファーが下向きについていることもあって花瓶台が振動し、音を濁らせていますが、自製インシュレーターで、このことが、かなり軽減されます。加えて電源ケーブルの対策で、音の濁りが取れ、すっきりとして、合奏曲の分離もよくなりました。

現在、専用ボードをもらえるというキャンペーンの応募をしており、このボード入手後に改めて効果を確認します。なお、電源ケーブルも交換したいところですが、特殊な形状なので見送ります。



専用ボード

4. まとめ

自製インシュレーターと電源ケーブルの対策で、音の濁りが取れ、すっきりとしてきました。さらに専用ボードの効果を確認する予定です。

以上